

— 令和3年度 九州地域における地域産業活性化  
に向けた次世代モビリティ調査事業 報告書 —

# 「東峰村 MaaS 戦略」

2022年3月

## 〈 目 次 〉

### 第 I 章 戦略策定の背景

1 戦略策定の背景 -----	1
-----------------	---

### 第 II 章 東峰村 MaaS 戦略

1 戦略の方向性-----	2
2 戦略事業 -----	3
事業① BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」 -----	3
事業② BRT 彦山駅を核とした「広域観光の促進」 -----	4
事業③ MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」 -----	5
事業④ 新たなモビリティによる「窯元を巡る周遊観光の促進」 -----	6
事業⑤ 観光客向けのモビリティによる「村内観光の魅力向上」 -----	7
事業⑥ 貨客混載による「都市部への地域産品の出荷」 -----	8
事業⑦ モビリティ利用者をターゲットとした「新商品の開発」 -----	9
事業⑧ 近隣自治体との「広域連携」 -----	10
事業⑨ 地域の体制による「勉強会の開催」 -----	11
3 東峰村「公共交通計画」における事業（案） -----	12
4 事業一覧（MaaS 戦略及び公共交通計画における事業） -----	16

## 1. 戦略策定の背景

2019 年度より経済産業省と国土交通省の共同プロジェクトである「スマートモビリティチャレンジ」がスタートし、新たなモビリティサービスの社会実装を通じた地域交通に関する課題解決及び地域活性化に向けた取組みが各地域で進んでいる。

九州に多く存在する中山間地域においては、少子高齢化に伴い地域の運輸・観光事業者等の事業継続が厳しく、単独で次世代モビリティ事業の創出まで辿り着けない地域が多数存在する。さらに、近年の相次ぐ災害による交通インフラの被災やコロナ禍における移動自粛に伴い事業継続が厳しくなっている地域事業者もあり、地域モビリティを再構築し、効果的・効率的に運営を図ることが地域経済活性化の喫緊の課題となる地域も存在している。このような地域においては、地域モビリティを支える人材の確保や採算性の改善が課題となっており、モビリティサービスを維持するために「地域のプレイヤーを育成する」、「サービスの採算性向上に取り組む」ことの重要度が高まっている。

2021 年度、九州経済産業局では、中山間地域に位置し、地域モビリティの維持・発展に高い危機意識を持つ「福岡県朝倉郡東峰村」をフィールドとした F S (事業可能性) 調査を実施することで、東峰村のような九州の中山間地域の実情を広く把握し、地域での MaaS の普及及び観光・産業振興を目指すことを目的とする「令和 3 年度九州地域における地域産業活性化に向けた次世代モビリティ調査事業」を実施した。

具体的には、東峰村内外の関係者へのヒアリング調査等を実施し、村の課題やニーズを把握するとともに、「中長期的な人材育成」や「マーケティング手法を活用したサービス開発」等により課題解決、ニーズ実現に導き、観光・産業振興による地域経済の活性化を目指す「東峰村 MaaS 戦略」を策定した。

「東峰村 MaaS 戦略」は、2022 年度の策定を予定している東峰村の「公共交通計画」に反映し、連動して展開することで「より実践的」に取組みを進めていく。



## 1. 戦略の方向性

東峰村の MaaS 戦略では、以下の「**3つの方向性**」に基づき、村の観光・産業振興に向けた取組み（戦略事業）を実施する。

## 3つの方向性

**方向性Ⅰ BRT を軸とした「新たな人の流れ」の創出**

BRT とつなぐ「二次交通」を充実し、BRT を軸とした周遊観光の促進を図るとともに、交通結節点となる駅舎の情報発信機能等の向上により MaaS を推進し、BRT を利用して来訪する観光客等の東峰村への新たな人の流れを創出する。

**方向性Ⅱ モビリティを効果的に活用した観光・産業振興**

潜在的な移動ニーズに応える新たなモビリティを運行することで、村内での移動利便性を向上し、周遊観光の促進等につながる村内観光の魅力向上を図る。  
また、モビリティで商品を運ぶ「貨客混載」を活用することやモビリティの利用を新たなサービス（ビジネス）の機会につなげることで、東峰村の観光・産業振興を進めていく。

**方向性Ⅲ MaaS を支えるプレイヤーの確保、育成**

MaaS 戦略の展開に向けて、村内の交通事業者だけでなく、近隣自治体の事業者や異業種の事業者等との連携を進めることで、MaaS を支えるプレイヤーを確保、育成していく。

**東峰村の理想像※**

※「第2次 東峰村総合計画」

美しい山里を継承し 豊かな暮らしを創造する 幸せな村



## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 2. 戦略事業【方向性Ⅰ】

#### 事業① BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」

<p><u>内容</u></p>	<p>■ BRT の「大行司駅」と「道の駅小石原」をつなぐモビリティを運行し、BRT から道の駅や窯元へとつなぐ「周遊ルートを構築」することで、BRT を活用した東峰村への周遊観光の促進を図る。</p> 
<p><u>狙い</u></p>	<p>■ BRT から道の駅や窯元へとつなぐ「周遊ルートを構築」することで、<b>BRT 沿線の美しい景観と小石原での陶器鑑賞等がセット</b>になった東峰村への周遊観光を促進する。</p>
<p><u>事業のポイント</u></p>	<p>■ 現状、大行司駅－道の駅間は「路線バス」が運行している。そのため、<b>BRT の二次交通の充実にに向けた路線バスの活用</b>を検討するとともに、今後、<b>路線バスの運行を見直す際は、上記「狙い」を考慮し</b>検討を行うことが求められる。</p> <p>■ BRT と道の駅小石原を結ぶモビリティを<b>複数運行（事業①、②）する必要性を検証</b>することが必要。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業②：BRT 彦山駅を核とした「広域観光の促進」 事業③：MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、交通事業者 等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 事業②

### BRT 彦山駅を核とした「広域観光の促進」

<p><u>内 容</u></p>	<p>■ 添田町の BRT「彦山駅」と「道の駅小石原」をつなぐモビリティを運行し、彦山駅を核として BRT から道の駅や窯元へとつなぐ「周遊ルートを構築」することで、BRT を活用した東峰村と添田町との広域観光を促進する。</p> 
<p><u>狙 い</u></p>	<p>■ 添田町の「彦山駅」を核として、東峰村の道の駅や窯元へとつなぐ「周遊ルートを構築」することで、<u>英彦山の景観や英彦山神宮等の観光資源と小石原での陶器鑑賞等がセット</u>になった東峰村と添田町との広域観光を促進する。</p>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<p>■ 添田町の観光（交通）施策や同町の交通事業者等との調整が必要。</p> <p>■ 彦山駅を核としたモビリティの運行においては、季節性の需要変動が想定されることから、<u>事前予約制での運行</u>を検討することが必要。</p> <p>■ BRT と道の駅小石原を結ぶモビリティを<u>複数運行（事業①、②）する必要性を検証</u>することが必要。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業①：BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」</p> <p>事業③：MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、交通事業者、添田町（連携） 等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 事業③

### MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」

<p><u>内容</u></p>	<p>■二次交通の起点となる BRT 駅舎においては、MaaS の推進に向けて待合環境を向上するとともに、IT を活用し、観光情報や二次交通等の情報発信拠点としての機能を強化する。</p> 
<p><u>狙い</u></p>	<p>■BRT 駅舎での待合環境の向上及び情報発信機能を強化することで、<b>観光等での移動快適性及び移動利便性の向上</b>を図り、観光の魅力向上につなげていく。</p>
<p><u>事業のポイント</u></p>	<p>■BRT を運行する JR との調整が必要。</p> <p>■<b>IT を活用した効果的な観光情報・交通情報の発信</b>を検討するとともに、観光・交通情報だけでなく、<b>地元産品の情報発信等</b>も検討する。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業①：BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」</p> <p>事業②：BRT 彦山駅を核とした「広域観光の促進」</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、JR（連携）等</p>

# 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

## 2. 戦略事業【方向性Ⅱ】

### 事業④ 新たなモビリティによる「窯元を巡る周遊観光の促進」

<p><b>内容</b></p>	<p>■ 道の駅小石原等を起点に、窯元を巡るモビリティを運行することで村内の周遊観光の促進を図る。</p> <p>＜乗合タクシー＞</p>  <p>＜貸切タクシー＞</p>  <p>＜窯元マップ＞</p> 
<p><b>狙い</b></p>	<p>■ BRT から二次交通を利用して、道の駅小石原に來訪した観光客等の道の駅から窯元を移動（周遊）するモビリティを確保することで、公共交通を利用した観光振興につなげていく。</p>
<p><b>事業のポイント</b></p>	<p>■ 季節性の需要変動が想定されることから、<u>事前予約制での運行</u>を検討することが必要。</p> <p>■ 高額でもよいので希望の窯元へ自由に周遊したい観光客（高嗜好層）、予め決まった窯元でいいので安価に周遊したい観光客（低嗜好層）など <u>観光客の嗜好に応じたモビリティを検討</u>することが必要。 （高嗜好層：貸切型モビリティ、低嗜好層：定路線乗合型モビリティ）</p> <p>■ 定路線型のモビリティでは、<u>予め周遊する窯元の選定（調整）</u>が必要。</p>
<p><b>関連事業</b></p>	<p>事業①：BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」          事業②：BRT 彦山駅を核とした「広域観光の促進」          事業⑤：観光客向けのモビリティによる「村内観光の魅力向上」</p>
<p><b>実施主体</b></p>	<p>東峰村、交通事業者、道の駅小石原、小石原焼陶器協同組合 等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 事業⑤

### 観光客向けのモビリティによる「村内観光の魅力向上」

<p><u>内 容</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■道の駅小石原等を起点に、旅客用オート三輪「トゥクトゥク」を運行し、周遊観光等でのレトロな雰囲気を感じる移動手段を確保することで、村内観光の魅力向上を図る。</li> </ul> <p style="text-align: center;">&lt;トゥクトゥク&gt;</p> 
<p><u>狙 い</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■移動目的だけでなく、<u>乗車自体が目的となるモビリティ</u>を運行または貸し出すことで、村内での周遊観光の魅力向上につなげる。</li> </ul>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■運行形態として「<u>運転手付きでの運行</u>」または利用者に貸し出し自らが運転する「<u>レンタルでの運行</u>」が想定される。特に運転手付きでの運行では、<u>運転手の確保が必要であることから、より慎重な検討</u>が必要。</li> <li>■季節性の需要変動が想定されることから、運転手付きでの運行では<u>事前予約制での運行</u>を検討することが必要。</li> <li>■トゥクトゥク車両の配置が必要であることから、購入費用や整備費用等の新たなコストが発生する。そのため、車両の短期レンタル等による<u>実証運行を実施し、需要（市場性）を検証</u>することが必要。</li> <li>■車両の整備保管とともに、レンタル手続きの窓口等の運転手に加えて<u>運行を管理するプレイヤーの確保</u>が必要。</li> </ul>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業①：BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」 事業④：新たなモビリティによる「窯元を巡る周遊観光の促進」</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、交通事業者、道の駅小石原、小石原焼陶器協同組合 等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 事業⑥ 貨客混載による「都市部への地域産品の出荷」

<p><u>内容</u></p>	<p>■ BRT 等での「貨客混載<sup>※</sup>」を活用し、東峰村の地域産品を小倉駅等の都市部に出荷、販売する。</p> <p>※公共交通を活用し、乗客（人）とともに「商品（物）」を運ぶ仕組み</p> <p>＜路線バスによる貨客混載＞</p>  <p>2021年3月10日「南海日日新聞」</p>
<p><u>狙い</u></p>	<p>■ BRT 等を移動手段だけでなく、<u>輸送手段としても活用</u>することで、公共交通をより効果的に活用した産業・観光振興を図る。</p>
<p><u>事業のポイント</u></p>	<p>■ <u>貨客混載の強みである「即時性（短い輸送時間）」</u>を最大限考慮して、出荷物や出荷・販売場所を設定することが必要。 （出荷物例：傷みやすいヤマメ等の鮮魚等、販売場所：小倉駅等）</p> <p>■ BRT 等への<u>搭載方法</u>、<u>出荷物の梱包方法</u>を検討することが必要。</p> <p>■ 市場となる<u>都市部での販路開拓</u>の取組みを行うことが必要。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業③： MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、地域産品関連事業者、JR（連携）等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 事業⑦

### モビリティ利用者をターゲットとした「新商品の開発」

<p><u>内 容</u></p>	<p>■BRT の利用する観光客等をターゲットとした東峰村の新たな地域産品を開発し、販売する。</p> <p style="text-align: center;">小石原焼、高取焼の販売</p>  <p style="text-align: center;">地域産品の販売</p>   
<p><u>狙 い</u></p>	<p>■BRT 等の利用を<u>新たなサービス（ビジネス）の機会につなげる</u>ことで、東峰村の観光・産業振興を進めていく。</p>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<p>■ヤマメ等の地域産品による駅弁の開発等の <u>BRT 等の利用において、販売が見込まれる商品</u>の開発が想定される。 （商品例：駅弁や飲み物、スイーツ等、販売場所：BRT 車内、駅舎等）</p> <p>■地域産品と<u>日田彦山線（及び BRT）とのコラボレーショングッズ</u>の開発が想定される。 （グッズ例：小石原焼による汽車土瓶、販売場所：BRT 車内、駅舎等）</p> <p>■商品の開発、販売、宣伝においては、<u>JR の支援・協力</u>が求められる。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業③： MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、地域産品関連事業者、JR（連携）等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 2. 戦略事業【方向性Ⅲ】

#### 事業⑧ 近隣自治体との「広域連携」

<p><u>内容</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 近隣自治体及び近隣自治体の交通事業者等と連携し、新たな移動需要を担うプレイヤーを広域で確保していく。</li> </ul> 
<p><u>狙い</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 広域での<u>交通資源の効率的な再配置</u>によるプレイヤーの創出、確保を図るとともに、<u>広域移動の利便性向上</u>による広域観光の振興を図る。</li> </ul>
<p><u>事業のポイント</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 近隣自治体との広域連携に向けた協議、調整が必要。 あわせて、近隣の交通事業者との協議、調整が必要。</li> <li>■ タクシー事業者は、<u>営業区域を考慮</u>して連携を図ることが必要。</li> <li>■ 予約事務やシステムの導入等においては、自治体を跨いで共同で運営するなど、<u>広域連携による効率化</u>を図ることが必要。</li> </ul>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>全事業：全ての事業において、広域連携による効果的かつ効率的な事業の展開を検討する。</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、近隣自治体、村内及び近隣自治体の交通事業者 等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 事業⑨ 地域の体制による「勉強会の開催」

<p><u>内 容</u></p>	<p>■ MaaS 戦略の展開に向けた広域連携等の体制構築において、勉強会を開催し、戦略の啓発や自治体職員も含めたプレイヤーの育成を図る。</p> 
<p><u>狙 い</u></p>	<p>■ 勉強会を開催し、戦略の啓発や自治体職員も含めたプレイヤーの育成を進めることで、より<u>実践的な事業の展開</u>につなげていくとともに、<u>公共交通を担う（支える）持続可能な MaaS</u>を実現していく。</p>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<p>■ 広域連携（事業⑧）での近隣自治体の関係者の参画を図る。 ■ 勉強会では、自動車ディーラーなど<u>異業種からの参画</u>も図る。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>全事業：全ての事業を勉強会でのテーマとして検討する。</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、近隣自治体、交通事業者、観光関連事業者、自動車ディーラー 等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 3. 東峰村「公共交通計画」における事業（案）

来年度（2022年度）、東峰村では「公共交通計画」の策定を予定している。

「東峰村 MaaS 戦略」は、東峰村の「公共交通計画」に反映し、連動して展開していく。

#### 事業① 路線バスにおける事前予約制の導入検討

<p><u>内容</u></p>	<p>■ 東峰村を運行する路線バス（杷木ー小石原間）について、空バスの解消及び費用対効果の高い運行に向けた事前予約制の導入を検討する。</p> 
<p><u>狙い</u></p>	<p>■ <u>事前予約制を導入</u>することで空バスの解消を図る。また、<u>利用（成果）に応じた費用負担等の導入</u>により、費用対効果の高い運行を図る。</p>
<p><u>事業のポイント</u></p>	<p>■ 1便当りの利用者数が少ないことから、<u>車両の小型化</u>も検討する。 （例：デマンド型の乗合タクシーの導入等）</p> <p>■ 一方、事前予約制の導入及び車両小型化は、<u>利便性及び快適性の低下につながる懸念</u>もあることから、導入には慎重な検討が必要。</p> <p>■ 効率的な運行による費用削減と併せて、<u>ドアトゥドア運行の導入</u>や<u>便数を増やす</u>など利便性向上による利用促進策も検討する。</p> <p>■ 路線バスが通過する<u>他市（朝倉市、うきは市、日田市）との調整</u>が必要。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業②：路線バスの通学利用での利便性向上</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、交通事業者、路線バスの通過する自治体（連携）等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 事業②

### 路線バスの通学利用での利便性向上

<p><u>内 容</u></p>	<p>■路線バスについて、通学（登校時）の利用者の多い便は、運行ルートを見直す等により乗車時間を短くすることで、利便性の向上を図る。</p>  <p>■ 〆木へ直行（経路地の見直し） ＝ 運行時間の短縮</p>
<p><u>狙 い</u></p>	<p>■通学（登校時）利用の多い便について、経路地を見直すなど<u>運行ルートを変更し乗車時間を短くする</u>ことで、通学生の朝の負担を軽減する。</p>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<p>■<u>登校時の便を対象</u>とし、帰宅時での利用の多い便は対象としない。</p> <p>■経路地を見直すことで、<u>経路地に居住している住民等が利用できなくなる懸念</u>があることから、導入には慎重な検討が必要。</p> <p>■増便により、<u>運行ルート（地域）を分ける</u>ことで、乗車時間を短くすることも想定される。一方、<u>増便による費用増が懸念</u>されることから、同様に導入には慎重な検討が必要。</p> <p>■事前予約制の導入（事業①）を考慮し検討することが必要。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>事業①：路線バスにおける事前予約制の導入検討</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、交通事業者 等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 事業③ スクールバス車両の有効活用

<p><u>内容</u></p>	<p>■スクールバス車両について、利用頻度の低い昼間の時間帯での活用を図る。</p> 
<p><u>狙い</u></p>	<p>■スクールバスについて5台（大型1台、中型4台）のバス車両で運行されているが、朝夕の登下校時以外はあまり利用されていないことから、<b>車両の有効活用（効果的な運用）</b>を図る。</p>
<p><u>事業のポイント</u></p>	<p>■車両の活用とともに「運転手の確保」が必要。 ■車庫等でのスムーズな車両受け渡しに配慮することが必要。</p>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>全事業：村内だけでなく、村外も含めて新たな運行を検討することが想定されることから、全ての事業において連携・調整が必要。</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、スクールバス関係者 等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 事業④

### いづみ館の送迎車両を活用した村内の移動需要への対応

<p><u>内 容</u></p>	<p>■いづみ館の送迎車両に、施設利用者以外も混乗するとともに、いづみ館以外でも乗降できるようにする。</p> 
<p><u>狙 い</u></p>	<p>■いづみ館の送迎車両に<u>施設利用者以外も混乗</u>し、いづみ館以外でも乗降できるようにすることで、村内の移動手段としての活用を図る。</p>
<p><u>事業の ポイント</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■事前予約制、ドアトゥドアによる運行、運賃（有料・無料）の設定など運行方法に応じた<u>道路運送法等への法的対応</u>が必要。</li> <li>■村内のタクシー事業者との協議、調整が必要。</li> <li>■送迎を担っている運転手との協議、調整が必要。</li> </ul>
<p><u>関連事業</u></p>	<p>全事業：村内全域を運行することが想定されることから、全ての事業において連携・調整が必要。</p>
<p><u>実施主体</u></p>	<p>東峰村、いづみ館運営者、交通事業者 等</p>

## 第Ⅱ章 東峰村 MaaS 戦略

### 4. 事業一覧（MaaS 戦略及び公共交通計画における事業）

方向性	事業	実施主体
<b>方向性Ⅰ BRT を軸とした「新たな人の流れ」の創出</b>		
	①BRT 沿線の美しい景観等を活かした「周遊観光の促進」	東峰村、交通事業者 等
	②BRT 彦山駅を核とした「広域観光の促進」	東峰村、交通事業者 添田町（連携） 等
	③MaaS の推進に向けた「BRT 駅舎の活用」	東峰村、JR（連携） 等
<b>方向性Ⅱ モビリティを効果的に活用した観光・産業振興</b>		
	④新たなモビリティによる「窯元を巡る周遊観光の促進」	東峰村、交通事業者 道の駅小石原 小石原陶器共同組合 等
	⑤観光客向けのモビリティによる「村内観光の魅力向上」	東峰村、交通事業者 道の駅小石原 小石原陶器共同組合 等
	⑥貨客混載による「都市部への地域産品の出荷」	東峰村 地域産品関連事業者
	⑦モビリティ利用者をターゲットとした「新商品の開発」	JR（連携） 等
<b>方向性Ⅲ MaaS を支えるプレイヤーの確保、育成</b>		
	⑧近隣自治体との「広域連携」	東峰村、近隣自治体 村内及び近隣自治体の 交通事業者 等
	⑨地域の体制による「勉強会の開催」	東峰村、近隣自治体 交通事業者 観光関連事業者 自動車ディーラー 等
<b>東峰村「公共交通計画」 ※2022 年度策定予定、以下は事業（案）</b>		
	①路線バスにおける事前予約制の導入検討	
	②路線バスの通学利用での利便性向上	
	③スクールバス車両の有効活用	
	④いずみ館の送迎車両を活用した村内の移動需要への対応	

